

千葉県 NEWS

CHIBA CANCER CENTER NEWS

がんセンターニュース



第35号
平成29年2月24日発行
発行:千葉県がんセンター

理念

心と体にやさしく、希望の持てるがん医療

私たちは一人でも多くの患者さんに
質の高いがん治療を提供します。

千葉県がんセンターにおける保険診療

医療局長 飯笹 俊彦



去る平成28年11月16日、千葉県がんセンターでは厚生労働省関東信越厚生局による保険診療に対する個別指導がおこなわれました。その結果現在行っている保険診療を継続してよいということで「経過観察」との通達をいただきました。

健康保険法第73条によれば「保険医療機関及び保険薬局は療養の給付に関し、保険医及び保険薬剤師は健康保険の診療又は調剤に関し、厚生労働大臣の指導を受けなければならない。」とされ、適宜このような指導を受けなければならないことになっています。しかし今回行われた個別指導は、平成27年4月に行われた厚生労働省による千葉県がんセンターに対する処分に対し、指摘事項の改善がなされたかどうかを確認することが主な目的でした。

千葉県がんセンターは3年前週刊誌に掲載された診療報酬不正請求問題に関する記事をきっかけに、厚生労働省による共同指導は監査に至り、平成27年4月一連の不正請求及び不当請求に対して戒告という重い処分を受けました。もちろん我々はこのような請求を意図的に行ったのではないのですが、診療報酬点数表ならびに保険医療機関及び保険医療養担当規則の理解不足であったことを深く反省しなければならないと考えました。保険医療機関としてもこのような請求に対するチェック体制が不十分であったことを重く受け止め、千葉県がんセン

ター改革本部を立ち上げ病院機構の改革を目指しました。平成26年11月以降保険診療点検委員会を設置し不正・不当な請求が行われることのないよう毎月レセプトの事前チェックを行うこととしました。また保険に精通した外部医師に指導監を依頼し、保険診療点検委員会での審議の妥当性を検証していただくこととしました。さらに保険診療は「保険者と保険医療機関の公法上の契約」であるということ、つまり保険診療では

- ①保険医が
- ②保険医療機関において
- ③健康保険法をはじめとする各種法令や療養担当規則の規定を遵守し
- ④医学的に妥当適切な診療を行い
- ⑤診療報酬の算定方法に定められたとおりに請求を行う。

ということを熟知していることが前提なのですが、多岐にわたるルールの中で一部に誤った解釈がみられたことから、年2回保険診療に関する講習会を開催するよう改めました。

現在の日本の診療制度は国民皆保険、フリーアクセスという他の国と比べると素晴らしいものです。今回の問題を契機に千葉県がんセンターの保険診療に対する点検体制は大いに改善され、千葉県がんセンター職員の保険医療に対する意識は高まったものと思います。今後も萎縮することなく以前のような千葉県がんセンターの信頼を回復できるよう努力してまいりたいと思います。

臨床の現場から

去勢抵抗性前立腺がん(CRPC)に対する 塩化ラジウムを用いた新しい治療

泌尿器科部長 深沢 賢

泌

泌尿器科で治療する悪性腫瘍の中で最も患者数が多いのは前立腺がんです。今回は、前立腺がんの新規治療薬について解説していきます。

転移のある前立腺がんに対しては、まずホルモン治療が行われます。これは、前立腺がんが男性ホルモンであるアンドロゲンにより増殖するがんであるため、精巣を摘除する外科手術（外科的去勢術）や、アンドロゲンの作用を抑制するホルモン療法（内科的＝薬剤による去勢術）が有効だからです。ホルモン治療は非常に効果の高い治療ですが、時間の経過と共にホルモン療法の効果が認められなくなる場合が多く、この状態を「去勢抵抗性前立腺がん（CRPC）」と呼びます。CRPCとなった前立腺がんは、男性ホルモンであるアンドロゲンが枯渇しても、副腎由来のわずかなアンドロゲンで増殖を続けるようになり、ホルモン治療だけでは進行を抑えられなくなります。

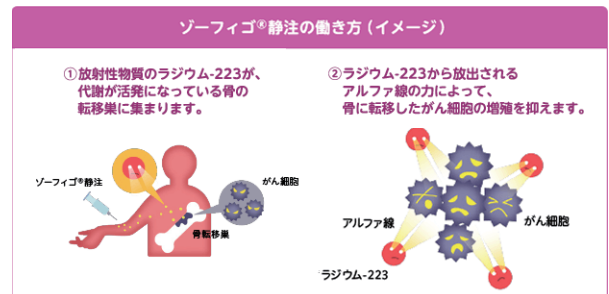
CRPCの治療にはドセタキセル（商品名タキソテール[®]他）と呼ばれる抗がん剤が2008年に使用可能になりましたが、長らく他に選択肢がない状態が続いていました。近年新薬の開発が進み、抗アンドロゲン薬のエンザルタミド（イクスタンジ[®]）、アピラテロン（ザイティガ[®]）、抗がん剤のカバジタキセル（ジェブタナ）が2014年に相次いで登場しました。

CRPCの患者さんの大半は骨転移があり、骨転移は進

行すると疲労や衰弱、普段の活動が難しくなるなど日常生活に支障を来す症状に見舞われ、さらに生命予後も短くなってしまいます。

今回ご紹介する塩化ラジウム 223Ra（ゾーフィゴ[®]）は、日本では2016年から使用できるようになりました。通常の抗がん剤とは異なり、日本で初めてのアルファ線を放出する放射性医薬品で骨転移巣に対して抗腫瘍効果を発揮します。塩化ラジウムは、国際共同第3相試験において骨転移のあるCRPC患者さんの全生存期間（OS: overall survival）を有意に延長することが確認されました。また、症候性骨関連事象（SSE: Symptomatic Skeletal Event）の初回発現までの期間を延ばすことも期待できます。副作用は64.3%に認められ、悪心（20.8%）、貧血（18.3%）、下痢（16.7%）、骨痛（15.8%）、疲労（12.2%）などがあり、重大なものは貧血などの骨髄抑制が報告されています。抗がん剤を使用する場合に比べると、副作用は軽度であると言えます。

また、この薬剤は放射性医薬品であるためどの施設でも使用可能なわけではありません。当院では泌尿器科と核医学診療部との連携のもと、2013年から実施した国内第2相試験にも参加しており2016年より前から使用実績があります。当院の特色を生かした治療を今後も提供して参ります。



ゾーフィゴの作用

千葉県がんセンター 第15回県民公開セミナー開催報告



今年で第15回目を迎える県民公開セミナーを、平成28年10月29日（土）午後1時から京葉銀行文化プラザで開催いたしました。今回のテーマは「知って得するがん診療」です。永田病院長によるあいさつの後、研究所の永瀬先生が「抗がん剤の進歩・最新の話」、精神腫瘍科の秋月先生が「患者教室の紹介」、がん相談支援センターの野田さんが「正しい情報を持ちましょう～周りの人にどう伝える？～」、がん性疼痛看護認定看護師の樋口さんが「もしものときを考える～自分らしい生活を送るために～」を講演いたしました。後半の総合討論では、座長を精神腫瘍科の秋月先生が、パネリストを講演者が担当して、参加者の皆様から寄せられた質問にお答えいたしました。また、会場ロビーでは患者さんの団体による医療関係の展示も行われました。

当日は天気にも恵まれ104名の方に御参加いただきました。来場者の方々から寄せられたアンケートには来てよかった、大変興味深かったとのお声をいただいた一方で、セミナーの運営・広報の面で率直な御意見もあり、今後の課題としていきたいです。



認定がん相談支援センターとして認定されました

心と体総合支援センター（がん相談支援センター）部長 藤里 正視

このたび当院の心と体総合支援センター（がん相談支援センター）が「認定がん相談支援センター」として認められました。全国のがん診療連携拠点病院には「がん相談支援センター」が設置されていますが、がん治療は日進月歩であり、また施策や社会環境が変わっていく中で、その変化に応じた支援を提供するためにも、がん相談支援センターの相談員は常に信頼できる最新の知識・情報を得ていくことが必要です。そうした研鑽を積んだ相談員「認定がん専門相談員」が2名以上在籍することや、定期的に相談対応の質の保証を行うなど、国ががん相談支援センターに求めている活動基準以上のがん相談支援活動を行っている施設として認められたものを「認定がん相談支援センター」といいます。相談対応の質を保証するために、昨年からは国立がん研究センターが認定作業を進めているもので、平成29年1月4日現在、全国で14施設認定され、私たちもそのうちのひとつとなりました。

患者さんは当然ながら、患者であると同時にごく普通の生活者でもあるわけで、がんの治療・療養と日々の生活をうまく両立させていかなくてはなりません。そんななかで病気の事、治療の事をきちんと理解したうえで、納得のいく治療が選べるようにするという事は容易な

事ではありません。私たちががん相談支援センターでは患者さんが『私のがん治療を受ける』ということをお手伝いしたり、治療を決める時の考え方などのご相談に対応しています。

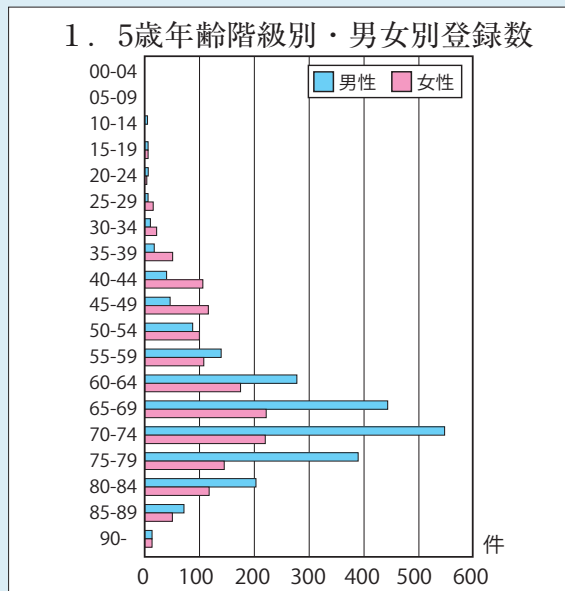
こうしたお悩みがあるときは是非「がん相談支援センター」を利用してください。最近ではそうした相談窓口が、がん診療連携拠点病院等に限らず増えている状況にあります。しかしながら、それらの窓口の設置基準はまちまちで、質の担保について統一された基準はありません。利用者にとって、信頼できるがん相談支援センターを判断しにくい状況が生まれています。「認定がん相談支援センター」と認められたことで、患者さん・家族が信頼できる相談窓口として、安心して利用していただければと願っています。

今回、認定を受けることが出来ましたが、これに満足せず、更に相談の質を上げていくことはもちろん、より相談のしやすい、親しみやすい窓口となるよう努力していこうと思っています。

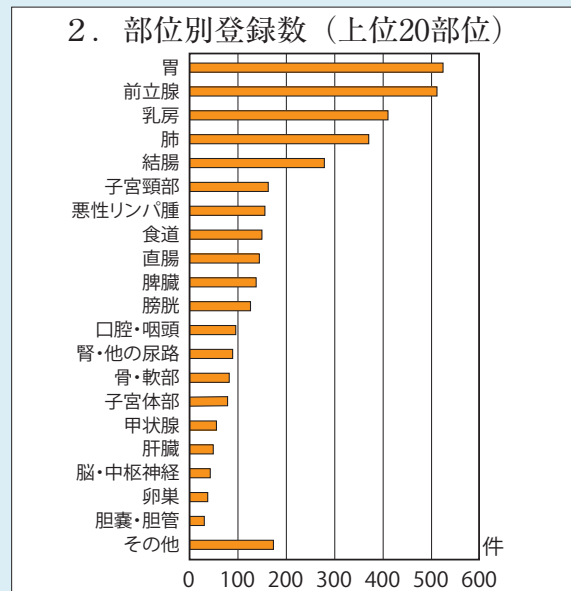


診療実績

院内がん登録
 （千葉県がんセンター 2015年症例）
 診療情報管理室



院内がん登録は、全国のがん診療連携拠点病院および推薦病院が、自院で診療した全てのがん患者さんの、診断・治療情報を登録するものです。集計結果は、国立がん研究センター・がん対策情報センターで、毎年公表されています。



初診担当医表

2017年2月1日現在

【予約受付時間】

月曜日～金曜日(祝祭日、年末年始を除く)
9時～17時

診療科	月	火	水	木	金
消化器外科 (食道・胃腸外科/ 肝胆膵外科)	池田 篤 外岡 亨 有光 秀仁	高山 巨 鍋谷 圭宏 早田 浩明 外岡 亨	滝口 伸浩 高山 巨 池田 篤 知花 朝史	鍋谷 圭宏 滝口 伸浩 永田 松夫 柳橋 浩男	早田 浩明 有光 秀仁 千葉 聡 星野 敢
消化器内科	傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人 喜多絵美里	傳田 忠道 須藤研太郎 三梨 桂子	山口 武人 傳田 忠道 廣中 秀一 中村 和貴	傳田 忠道 廣中 秀一 鈴木 拓人	中村 和貴 須藤研太郎 三梨 桂子 北川 善康
呼吸器外科	飯笹 俊彦		飯笹 俊彦 吉田 成利		飯笹 俊彦 吉田 成利
呼吸器内科	芦沼 宏典	板倉 明司 新行内雅斗 芦沼 宏典	吉田 泰司	板倉 明司 新行内雅斗 吉田 泰司	芦沼 宏典
乳腺外科	山本 尚人 榛澤 侑介	藤咲 薫 (担当医)	中村 力也 榛澤 侑介	藤咲 薫 (担当医)	中村 力也 榛澤 侑介
形成外科				徳元 秀樹	徳元 秀樹
婦人科	大崎 達也	田中 尚武 鈴鹿 清美 (腹腔鏡手術) 井尻 美輪		田中 尚武 鈴鹿 清美	
泌尿器科	小丸 淳 大塚 真史	篠崎 哲男	梨井 隼菱 鎌迫 智彦	小林 将行 竹下 暢重	深沢 賢 篠崎 哲男
腫瘍血液内科	熊谷 匡也 伊勢美樹子	辻村 秀樹 菅原 武明	熊谷 匡也 菅原 武明	熊谷 匡也 伊勢美樹子	熊谷 匡也 辻村 秀樹
脳神経外科	井内 俊彦		井内 俊彦		井内 俊彦
頭頸科	佐々木慶太 佐々原 剛	佐々木慶太 佐々原 剛 堀中 敦史		佐々木慶太 佐々原 剛 大熊 雄介	
整形外科	石井 猛 米本 司	石井 猛 岩田慎太郎		石井 猛	米本 司 岩田慎太郎 鴨田 博人
緩和医療科	秋月 晶子	秋月 晶子		秋月 晶子	秋月 晶子
精神腫瘍科	秋月 伸哉	秋月 伸哉		秋月 伸哉	秋月 伸哉
核医学診療部		戸川 貴史	久山 順平	久山 順平	戸川 貴史

【診療予約のご案内】

予約電話 043-264-5431 (代表番号) 地域医療連携室 予約担当

- *当センターは予約制となっております。受診される場合は、電話で予約をおとり下さい。
- *初めて受診なさる場合は、かかりつけ医など医療機関からの紹介状をお持ち下さい。

研究の現場から

研究所 実験動物研究室では

研究所実験動物研究室室長 若林 雄一

研

研究所実験動物研究室は、当センター研究所動物実験施設全体の管理を業務として行うと同時に、研究室独自のテーマについての研究も行うというふたつの顔を持っています。 昨年のセンター例会でも動物実験施設については紹介しましたので、今回は主に研究テーマについて紹介したいと思います。

様々なマウスを用いて発がん実験を行っています。我々が発がん刺激として用いているのは専らDMBA (7, 12-dimethylbenz[a]anthracene) と TPA (12-O-Tetradecanoylphorbol-13-Acetate) という2種類の化学物質です。この2種類を毛を剃ったマウスの背中に塗布することで、皮膚パピローマという良性腫瘍ができます。一部のパピローマは皮膚扁平上皮がんへと悪性化し、また、その一部はリンパ節等に転移します。即ち、腫瘍発生から悪性化へと至る過程のすべてがマウスの背中に観察することができます。この実験系はマウスの系統間により、発症する腫瘍数に非常に大きな差が

あることが古くから知られています。我々は発がん抵抗性マウスである日本産野生マウス、モロシヌスに属するMSM (図1) と発がん感受性マウスであるFVBを用いて、その違いを生み出す遺伝的な要因は何なのかを突き止めようとしています。もちろん、ひとつの遺伝子では説明できません。現在、いくつかの候補遺伝子があり、それらについて、順次、発表していく予定です。もうひとつは、既存の何種類もの遺伝子改変マウスを使ってDMBA と TPA を用いた発がん実験を行っています。即ち、それらの遺伝子の発がん過程における役割を探索しています。これにより、それらの遺伝子が治療標的として有望なのか、あるいはそうではないのか等がわかります。これらの基礎的な実験結果を次のステップとして、診断や治療へと発展させていくことが我々の究極的な目標です。



図1. 日本産野生マウス、モロシヌスに属するMSM

平成28年度 臨床研究総合センターシンポジウム報告

平成28年12月3日(土)14:00より、千葉県がんセンター事務局研修棟2階大会議室にて平成28年度臨床研究総合センターシンポジウムが開催されました。臨床研究総合センターシンポジウムは平成23年から開催され、今回で6回目の開催となります。今回は「Cancer Immunotherapy」をテーマとして、東京大学大学院医学系研究科分子予防医学教室松島綱治教授、千葉大学大学院医学研究院先端化学療法学滝口裕一教授という大変高名で精力的に活動されているお二人の先生方をお招きし、60名を超える人数が参加する大変盛況な会となりました。

当日は、免疫チェックポイント阻害薬と呼ばれる、今までにない全く新しい発想に基づいて開発された抗悪性腫瘍薬を中心に、その効果を生み出す機序および種々のがんに対する治療効果について最新のお話を伺うことができました。講演に加え、活発な質疑応答も行われ、今後のがん治療と研究の発展につながる貴重な機会となりました。



「乳腺センター」開設のお知らせ

当センターの乳がん診療は、乳腺外科のみではなく、形成外科、遺伝子診療科、腫瘍血液内科などの多くの診療部門が横断的に患者さんの診療に関わり、診療科どうしの定期的カンファレンスを行ない患者さんに適切でより高度な医療を提供して参りました。今回、このような診療体制を基軸として患者さんにさらにより良い医療を提供し、安心して治療を受けて頂くことを目的に「乳腺センター」を2016年10月より開設いたしました。



「乳腺センター」における各科の診療内容

1. 乳腺外科

手術、術前化学療法、進行・再発乳がんに対する薬物療法
治験、先進医療（早期乳がんに対するラジオ波熱焼灼療法）、臨床試験、
乳がん看護認定看護師による患者およびご家族との相談

2. 腫瘍血液内科

主に術後補助化学療法、進行・再発乳がんに対する化学療法、治験
乳がん看護認定看護師による患者およびご家族との相談

3. 形成外科

一次二期乳房再建（乳房全摘後のTissue Expander挿入）
一次一期乳房再建*（乳房切除と同時の乳房再建）
二次二期乳房再建*（乳房切除後、一定期間後の乳房再建）
*：自家組織またはシリコンインプラントによる乳房再建
リンパ浮腫に対する診療

4. 遺伝子診療科

遺伝性乳癌・卵巣癌症候群に関する診療、治験
（詳細な家族歴聴取、遺伝カウンセリング、遺伝子検査）



JR千葉駅から 所要時間:約25分

千葉中央バス: 誉田駅、鎌取駅、千葉リハビリセンター、大宮団地(星久喜経由)行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR鎌取駅から 所要時間:約13分

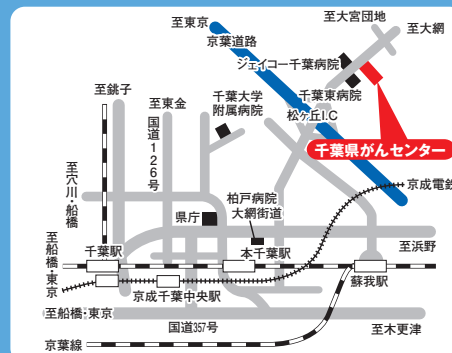
千葉中央バス: 千葉駅・蘇我駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

JR蘇我駅から 所要時間:約16分

千葉中央バス: 鎌取駅行乗車・千葉県がんセンター前下車

松ヶ丘I.Cから

大網街道を大網へ向かって約2km右側



千葉県がんセンター

〒260-8717 千葉市中央区仁戸名町666-2
TEL.043-264-5431 FAX.043-262-8680
<http://www.pref.chiba.lg.jp/gan/>